



### 横木三本の十字架

ロシア正教、日本へ④



ニコライ堂内の八端十字架

が八カ所あ

キリスト教のシンボルとも言える十字架。日常見かけるのは、横木よりも縦の軸木の方が長く、軸木の中央より少し上に横木がつけられた「ラテン十字」と呼ばれるものだ。

る「八端（はつたん）十字架」と呼ばれるものである。これは東方教会のロシア正教などスラブ系の教会で使われている十字架だ。上の短い横木は犯罪人の罪状書きを表すもので、イエスの場合は「ユダヤ人の王」と書かれていた。下の横木は十字架につけられた犯罪人の足台を表す。くぎだけでは体が支えきれず、罪人がずり落ちて窒息死するので、それを防ぎ、犯罪人の苦しみを長引かせるために設けられたもの。随分、残酷な話だ。

さて、イエス・キリストがゴルゴダの丘で十字架につけられた時、イエスの右と左にそれぞれ一人の罪人が十字架につけられた。イエスから見て左側の罪人はイエスをののしった。右側の罪人は

イエスに「あなたが御国（天国）においてになる時には、私を思い出して下さい」と言う。するとイエスは「あなたはききょう、私と一緒に樂園にいる」（ルカ二十章）と言われた。右の罪人は自分の罪を悔い改めたのである。八端十字架の下の横木は真横ではなく、イエスの右側の方が少し上がっている。これは悔い改めた罪人の救いを表したものとと言われる。以前は「ロシア十字」と呼ばれていたが、東方教会のブルガリア、セピリア、ベラルーシなどスラブ系の教会でも使われているので「八端十字架」と呼ばれるようになった。

キリスト教が各派に分裂したため、十字架もまたいろいろの種類がある。縦の軸木と横木が同じ長さで直角に交わる「ギリシャ十字」。円形の中に四つの穴で十字架を表す「ケルト十字」、ギリシャ語のキリストの冒頭のXの形をした「アンデレ十字」などがある。今日では信徒でない人がアクセサリとしてよく身につけているが、十字架はキリストの死に対する勝利と復活、救いの象徴である。

八端十字架のほかにニコライ堂でもう一つ目立つのはイコン（聖画像）だ。目に見ることのできない神的世界を、画像によって象徴的に示したものだ。正教会ではイコンを「天国の窓」と呼んで大切にしている。私はこれを見て、カトリック教会のステンドグラスを思い浮かべた。どちらも文字が読めない人々への教育的意味もあつたと考えられる。しかし、イコンは偶像崇拜だと破壊された時期もある。モーセが神から授かった「十戒」の中に「あなたはいかなる像も造ってはならない」と偶像礼拝を禁じ、ユダヤ教はそれを固く守った。一方、キリスト教では絵画を含めイコンやステンドグラスを大切にし、これらを通して神に祈りを捧げた。異なるのは表現方法だけだ。多様性の中にキリスト教の歴史が感じられる。正教会の十字架やイコンは、カトリックの私にも神を賛美する大切なもの思えた。



ニコライ堂の中のイコン